

## 会合のあゆみ

### 第1回 講演会 S62.4.19 (参加21名)

- ・関西の橋
- ・現場管理におけるコンピュータの利用
- ・S字曲線斜張橋
- ・橋梁の振動実験

### 第2回 講演会 S63.4.16 (参加22名)

- ・横浜港横断橋の概要および工事報告
- ・埋設ジョイントについて
- ・道路橋の耐震設計規定の変遷と動向

### 第3回 見学会 H1.4.15 (参加24名)

完成間近の「横浜ベイブリッジ」

### 第4回 講演会 H2.4.15 (参加23名)

- ・橋の振動とその制御
- ・建設あれこれ
- ・吊橋の技術動向

### 第5回 見学会 H3.6.1 (参加26名)

雨にけむる「レインボーブリッジ」

### 第6回 講演会 H4.7.4 (参加32名)

- ・吊り形式橋梁と設計
- ・日本道路公団試験研究所の近況
- ・A. I. T. 派遣を終えて

### 第7回 見学会 H5.9.4 (参加24名)

台風一過の「秩父公園橋と荒川の橋」

### 第8回 講演会 H6.7.10 (参加24名)

- ・東京外郭自動車道の建設について
- ・ニュー・ラット<sup>®</sup>の免震橋梁について
- ・二主桁合成斜張橋の紹介

### 第9回 見学会 H7.7.1 (参加30名)

「東京下町の橋」を屋形船で巡る

### 第10回 ??会 H8.?? (参加??名)

(幹事長 赤尾)



## 平成7年度さいきょう会

(敬称略)

顧問 田島 二郎 (田島橋梁構造研究所)  
伊藤 學 (埼玉大学教授)

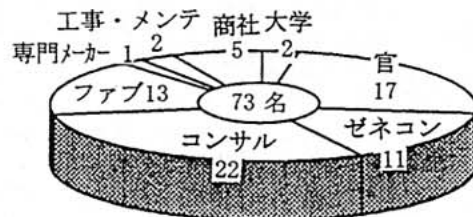
会長 森田 哲士 2 (清水建設)

幹事 齊藤 孝一 9 (東京鉄骨橋梁製作所)  
上野 淳人 15 (日本構造橋梁研究所)  
○赤尾 圭二 17 (栗本鐵工所)  
×山口 睦男 17 (阪和興業)  
宇津木一弘 20 (鹿島建設)  
松田 岳憲 23 (サクラダ)

### 運営に携わった人

初代会長 軽部 信雄 3 (日本道路公団)  
2代会長 佐伯 光昭 1 (日本技術開発)  
初代幹事長 押尾 泰寿 14 (服部エン지니어リング)

### 会員内訳 (人数)



### 問い合わせ・入会の申込先

栗本鐵工所 橋梁設計部  
東京設計課 赤尾 迄  
TEL 03-3436-8311  
FAX 03-3436-8135

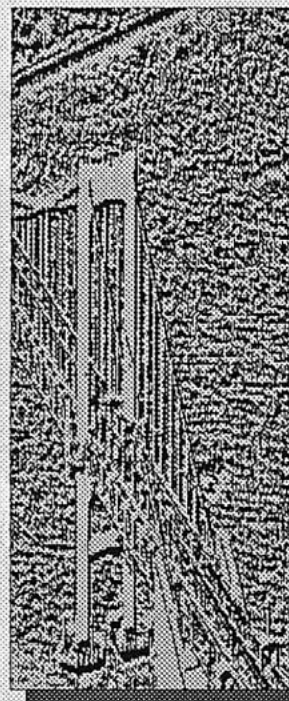
もしくは、上記幹事までご連絡下さい。

・無断転載を禁じます。 9601500

# さいきょう会

## 橋にかける

## 仲間たち



## さいきょう会って？

昭和62年4月19日にスタートした埼玉大学建設系の親睦会「さいきょう会」は9年目を迎え、会員数は70名を越えました。会則は「埼玉大学の卒業生で、橋の仕事に従事されている方や橋に興味がある方を対象に親睦と技術情報交換の場を提供する」というものです。

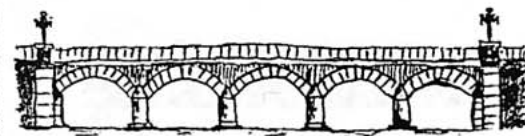
顧問は田島二郎、伊藤學両先生にお願いしています。会員内訳は別掲のとおり多岐にわたり、毎年1回の講演会もしくは現場見学会のもとに集まり、新しい技術・知識の取得に役立っています。

当日は懇親会もあり、日頃話す機会が少ない先輩・後輩とも橋談義が弾みます。官学民の違いはあれど「橋」という最大公約数の仲間が集まる、同窓会以上研究会未満が「さいきょう会」の役どころだと思います。

発足時は鋼橋メーカーにいた私他、同期の矢部氏、越智氏、17期の山口氏等が幹事役を仰せ付けられました。最初の難関は、会員になってくれそうな方々のリストアップです。この下リストは田島先生がほとんどつくって下さいました。つまり、発足時入会の方は光栄にも田島先生からのお誘いとも言えます。また、初代会長役をぶしつけなお願いにもかかわらず、3期の軽部さんが心良く引き受けて下さいました。

さて、会の名前ですが当時は妙案が浮かばず、彩橋会、親炙(しんしゃ)会、埼橋懇等が候補に上がりました。アンケートも行い考えあぐねた結果、ストレートに「さいきょう会」とし、ひらがなに含みを持たせました。人によっては埼橋会、最強会、最狂会?ともとれるからと。

(初代幹事長 14期 押尾泰寿)



イラスト：松田 岳憲

## 先生方の温かいまなざしに見守られて

卒業以来、早くも1/4世紀が過ぎてしまいました。東京湾横断道路、本四連絡橋など大事業やコンクリート示方書、道路橋示方書の改訂のため土木学会や道路協会の各種委員会に参画する機会を得ることができ、自分では技術者冥利に尽きるものと思って居ります。

そのような活動の中でありがたいと感じましたのは母校の先生方と同席する時でした。故久保先生、吉中先生、町田先生そして「さいきょう会」顧問の田島、伊藤両先生には埼玉大赴任前から橋関係の委員会でよく一緒に過ごしていただきました。前夜遅くまで苦心して作った資料の出来が不十分だった時に先生方から助け船を出して戴き、その結果望ましい方向に議論が展開したことや自ら気がつかないことへの注意を喚起されたことが多々ありました。

これからも日頃の研鑽を忘れず、「さいきょう会」のみなさんと手を携えて21世紀に向けて、美しく、地震に強い橋の計画・設計に努力を傾注して行きたいと存じて居ります。

(1期 佐伯 光昭)

## 花畔大橋の想い出

私にとって忘れられない橋といえば花畔大橋(ぼんなぐろおおはし)です。この橋は北海道の石狩川河口付近に架かる斜張橋です。

この橋に携わったのは既に10年前のことになります。私は修士課程を終了後、4年間民間の会社で勤めていましたが、入社2年目に初めて本格的な実施の仕事をしたのがこの橋でした。当時、この橋は受注前の検討段階でしたので、他社に先んずべく様々な技術的な検討(例えば、架設工法や耐風対策)を行いました。特に、耐風対策では、振り子型の制振装置を設計しました。設計の段階でパネ屋さんやオイルダンパーの会社の方と条件の打ち合わせをしたり、軸受けの設計など非常に勉強になりました。

私にとって初めての橋梁であったことと、計画段階から関わったことから、この橋には特別の愛着があり、大学へ移った後も2回ほど現地を訪ねました。今でも、大きな台風が北海道の方へ行くと「制振装置が動いているかな?」などと気にかかります。

(15期 奥井 義昭)

## 私の宝物

橋梁のコンサルタントに就職して13年になります。consultantを辞書で引くと「相談相手」とあります。私の仕事を格好良く言うと、「橋梁に関する相談相手」といったところでしょうか。ですから、いろいろな事をやりました。設計計算、製図、形式の決定、架設の計画、損傷の調査、技術的な委員会の運営等々。けれども私は元来不勉強ですので、知らない事ばかりで冷や汗をかき続けた13年間でした。そんな時に気軽にいろいろ教えて戴いたのが、埼玉大学の先生方、OBの方々です。そんな訳で、埼玉大学は私の宝物と言ったら大袈裟でしょうか。

今、私を最も夢中にさせる仕事は、一般図作成と呼ばれる計画の仕事です。地形線のみ白図に自分の思い通りの橋梁を書き入れる時、この仕事に就いた幸せを感じます。美しい橋の計画は、橋の構造、地盤の性質、水や風の事、材料の動向、その他様々を知って、はじめて可能になります。ここでも、先生方、OBの方々の手を煩わせる事になります。

(15期 上野 淳人)

## 卒業後10年間を振り返って

首都高速道路公団に入社して、この10年間、色々な職場に配属となった。入社2年間は、平成6年12月に営業を開始した高速湾岸線の羽田新空港内の地盤改良工事の設計を担当し、その後、建設省へ出向、そして、新線計画、現場監督と、主に計画、建設部門を歩んできた。

そして、現在、計画部第一計画課で、怒鳴り声や笑い声の入り交じった職場環境の中、事業中路線の事業調整業務等を行っている。

公団に入社している埼玉大学の卒業生は、延べ26名を数えており、この10年間、大学の先輩数名には仕えたが、私の部下に大学の卒業生が配属となる機会はなかった。しかし、やっと念願叶って(?)、今年度、同じ課に大学の後輩が新入職員として配属になった。それも、同じ研究室の卒業生である。このため、コンクリートの話で盛り上がりたが、幸か不幸か、直接の上司と部下の関係でないため、お互いに胸を撫で下ろしている今日この頃である・・・!?

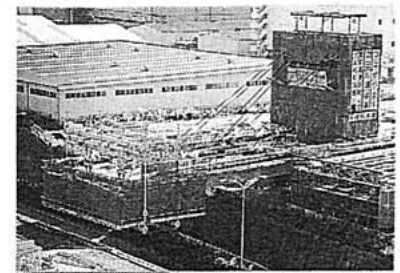
(16期 鶴田 和久)

## PC斜張橋の設計・施工

「橋」に憧れて土木に進み、早いもので卒業してから11年目になった。入社以来、コンクリート構造物、特にPC斜張橋の設計・施工業務に携わっている。入社2年目、白屋橋(非対称2径間PC斜張橋)の現場に行ったとき、自分が設計した配筋通り施工が行われていて、本当に大丈夫かなという不安と自分が設計したものが実際創造されて嬉しさと複雑な気持ちになった。平成元年から1年間、旭川ツインハープ橋(3径間連続PC斜張橋)の建設に従事した。片持ち架設で主桁を施工していき、最後の斜材架設緊張時、斜材調整量の補正計算を行い対岸から張出した桁との相対高誤差を5mm以下に抑えることができたときは「良い設計」をすれば「良い施工」が出来るかと確信した。現在、大阪府と兵庫県の県境に我が国最大の2径間PC斜張橋「新猪名川大橋」の設計施工を遂行している。完成予定は平成10年3月であり、現在主塔を施工中である。近くにお寄りの際は現場に足を向けて下さい。

(17期 山内 丈樹)

## 無事供用しています



写真は、昨年末に開通致しました首都高速湾岸線の一部となっているPC橋架設時のものです。僅か1年ですが、私が現場で担当しておりました。ピロン工法という公団では2例目位になる架設法を採用したため、完成時より、架設時の方が目立っておりました。今は東扇島の倉庫街で、毎日3万台の車を支えつつひっそり佇んでいることでしょう。

7年目の社会人ですが、委員会でお目にかかるK先生、隣の課で打合せをするNのS先輩、課長の客人TのY先輩等々、「あら、こんな所で。」はよくあることです。

(19期 三村 啓子)

## “東京外かん”と私

埼玉県南部を横に結ぶ“外かん”。私は7年近く担当しているが、局の課長時代、外かん景観検討会では委員長の高橋・田島先生からアドバイスを戴き、県との打合せでは県の担当室長が、かつて私の同期と共に仕事していた関係から話がうまく進んだり、埼玉大卒のメリットを十二分に享受できたことは、私を外かん担当にしてくれた公団を含め、感謝している。その成果は、昨年三月、隣の事務所M所長(埼玉大2期)と開通式で強く握手し、喜び合い、埼玉への恩返しが出来たことで表わされている。



(3期 軽部 信雄)

## 私と橋と大学

大学院を終了し、鋼橋のメーカーに就職して早くも3年の月日がたとうとしている。メーカーの設計業務にも慣れ、小さいながらも橋の担当を持ち作業をしている今日このごろです。今回は学科創立30周年に対して、さいきょう会のメンバーから一言ということで筆をとることになりましたので、就職後の私と大学の関わりについて少し話をします。

私が入社して半年ほど経ったあるとき、上司からの命令で参加することになった橋梁関連の研究部会に出席すると、なんとその部会長が修論の指導教官の町田教授でありびっくり。この部会は現在でも定期的に開かれており、最初の頃は学生の気分がなかなか抜けませんでした。またこの部会には当学科のOBが2名参加しており、この業界のせまさを痛感するとともに、業務で学科の教官あるいはOBに会うことのありがたさを感じました。

最後にさいきょう会は私にとって橋関連の先生やOBの方々に接することの出来る貴重な場です。興味のある方は参加して下さい。

(23期 真壁 知大)